

6年国語 一枚指導案集 「海のいのち」立松和平作

⑧場面「もう一度もどってきてても、～海のいのちだと思えた。」

本時の目標

- ・瀬の主を目の前にして太一が抱いた複雑な感情の中に、この魚をとりたいたいという思いがあることを考えさせる。
- ・相反する感情の中で揺れる太一が、クエのことをおとうと思うことによって殺さないで済み、父や与吉じいさの教えを本当に理解できるようになった太一の思いにふれさせる。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>⑧場面を読んでください</p> <p>もう一度どこにもどってきましたか。</p> <p>もどってきてみると、瀬の主はどんな様子でしたか。</p> <p>太一はそんな様子を見てどう思ったのですか。</p> <p>・「殺されたがっている」 この大魚は本当に殺されたがってるの？</p> <p>・「数限りなく魚を殺してきた」 この言い方をどう思いますか。</p>	<p>指名された児童が音読(2～3名)</p> <p>瀬の主がいるところ。 クエを見つけたところ。 大きなクエを見つけたところ。</p> <p>まったく動こうとはしない。 もりをつき出されていたのに。 あわてる様子がない。 逃げようともしていない。 太一を見ていた。 様子を見ている おだやかな目だった。 太一をおそれていない。 何をしてもいいぞ。 もりでつけばいい。</p> <p>この大魚は自分に殺されたがっている。 これまで数限りなく魚を殺してきたが、 こんな感情は初めて。 この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれない。</p> <p>殺されたがっている訳ではない。 それぐらいおだやかな目で太一を見ていたからそう思った。</p>	<p>・音読にチャレンジしようとする児童の数が 増えていることを期待したい。 (1・2班の動きに気をつける)</p> <p>・やる気を感じる具体的な評価をしながら 指名するように心がける。</p> <p>・各児童の音読時の表現にやる気や工夫を 感じられる部分を見出して評価していき たい。</p> <p>・つけたして言いかえが出ないようであ れば最初の意見を尊重して進めていくが、 つけたしてくれた児童がいればしっか りと評価し、発言の方向づけとしたい。</p> <p>・「全く動こうとはせず太一を見ていた」 本文をそのまま読むようなら、2つの行 動が描かれているのでひとつずつ分け とらえさせ、それぞれの行動から受ける 印象を考えさせたい。</p> <p>・自分にもりを向けた相手なのに？ 太一を敵と思っていないのかという疑問 を持たせたい。</p> <p>・太一の思いを出させてから、それぞれに ついて考えていくという流れ。</p> <p>・文脈から考えるとこれが妥当な意見とし て出てくると考えられる。</p> <p>・殺されたがってると思うことでこの大魚 を殺そうとしている自分を正当化したい という意見は出てこないだろうと思われ るが、近い考えが出てきたときには言葉 を補ってやりたい。</p> <p>・意見を言おうとする児童の数が少なくな りそうなところ。</p>

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>この大魚をとることは太一の仕事といえるのでしょうか。</p> <p>ではこの魚をとらないとなれない本当の一人前の漁師ってどういう意味なんでしょうね。</p> <p>これを考えているとき、太一はどんな表情をしていますか。</p> <p>そんな太一の表情はどのように変わりましたか。</p> <p>泣きそうになっていたのが、ほほえみになり、クエに向かって笑顔を作ったんだね。</p> <p>笑顔でなんと言いましたか。</p> <p>そう思うことによって、太一はどんなことをしなくて済んだのですか。</p> <p>⑧場面の予告 もう一度もどってきても、～海のいのちだと思えた。</p>	<p>今までとは違うような気がする。</p> <p>おとうにあこがれていたから、おとうの考えを受けついであると思う。「海のめぐみ」として海からもらっただと考えていた。</p> <p>自分の力で殺してという風には考えていなかったと思う。</p> <p>いえない。</p> <p>太一の仕事は一本づり漁師だから。この魚をとるのはもぐり漁師の仕事。</p> <p>泣きそうになりながらとりたくないけれどもとらないといけないと考えているから。</p> <p>とらないと本当の一人前の漁師にはなれないけど、とることは与吉じいさやおとうとはちがう生き方になる。</p> <p>2つの考えの中で太一の心が迷いながら揺れている。</p> <p>ふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。</p> <p>そして、もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かって笑顔を作った。</p> <p>「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」</p> <p>瀬の主を殺さないで済んだ。本当は殺したくなかった。</p> <p>殺さないことが父や与吉じいさと同じ生き方をすることになる。</p> <p>一本づり漁師としての自分の仕事ではないと思うから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今までの太一と比べてみたら？ということから導いてみる。</li> <li>• これまでの漁でとってきた魚のことを、殺してきたと表現しているのは今までの太一の考え方と比べてみたら…？</li> <li>• おとうとのつながりを意識させられたら「海のめぐみ」という考えは引き出させるのではないかと思う。</li> <li>• この意見まで出せたら上出来。</li> <li>• 「泣きそうになりながら」の理由については言葉として子どもたちが表現するには難しい部分だろう。</li> <li>• 左のような考えにつながるようなところを拾って補ってあげたい。</li> <li>• 意見がつながりにくいと感じたときには「そして…」というつなぎ言葉でうながしてみる。</li> <li>• 「殺さないで済んだ」というセリフから、太一の思いにせまらせたい。</li> <li>• 同じ方向の意見が続くようなら「本当の一人前の漁師にはならなくてもいいのかな。」とゆさぶりを加えてみる。</li> </ul>